



News Release

2026年10月29日
NITE (ナイト)
独立行政法人製品評価技術基盤機構
北海道支所

適切な離隔距離、知っていますか？ ～暖房器具は可燃物との距離を確保して火災を防ぎましょう～

1. 事故の発生状況

NITEに通知のあった製品事故情報※¹のうち、2021年から2025年までの5年間に発生した暖房器具※²の事故は、北海道で合計40件ありました。

(1) 事故の被害状況

暖房器具の被害状況別の製品事故発生件数を表1に示します。

表1 被害状況別の事故発生件数 (2021年～2025年)

被害状況		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	総計
人的被害	死亡	0	1	1	0	1	3
	重傷	0	0	0	0	0	0
	軽傷	0	2	0	1	0	3
物的被害	拡大被害※ ³	2	8	4	7	5	26
	製品破損	4	2	1	1	0	8
総計		6	13	6	9	6	40

(2) 製品別の事故発生件数

暖房器具の製品別の事故発生件数を表2に示します。

表2 製品別の事故発生件数 (2021年～2025年)

製品名	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	総計
石油暖房器具	5	8	5	7	6	31
電気暖房器具	1	4	0	2	0	7
オイルヒーター	0	0	1	0	0	1
電気カーペット	0	1	0	0	0	1
総計	6	13	6	9	6	40

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。

(※2) 石油ストーブ・石油ファンヒーター、電気ストーブ・電気ファンヒーター、オイルヒーター、電気カーペット

(※3) 製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。

2. 暖房器具の事故事例

■石油ストーブ（密閉式）

事故発生年月 2023 年 8 月（北海道、80 歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

当該製品は、布製カバーを掛けた状態で運転スイッチが押されたため、点火した後、熱放射面に接触していた布製カバーに着火し事故に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書には、「可燃物近接厳禁。長期間使用しない時は電源プラグを抜き油タンクの送油バルブを閉じる。」旨、記載されている。

■石油ストーブ（半密閉式）

事故発生年月 2022 年 12 月（北海道、70 歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

当該製品は、購入後 31 年間、清掃が行われていなかったことから、燃焼用送風機の空気取入口に多量のほこりが堆積して給気不足となったため、不完全燃焼を起こして燃焼筒内にたまった未燃灯油に使用時の炎が引火して異常燃焼し、火災に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書には、「日常の手入れとして、ストーブにほこりが付いているときは掃除する。また、ほこりのひどい場所で使用の場合は、サービス窓を開いて燃焼用送風機のファン部のほこりを取り除く。」旨、記載されている。

■電気ストーブ

事故発生年月 2022 年 2 月（北海道、80 歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

電気ストーブ付近から出火し、周囲を焼損した。

【事故の原因】

本体側の電源コードプロテクター付近に過度な応力が繰り返し加わったため、芯線が半断線し、短絡・スパークが生じたものと推定される。

なお、取扱説明書には、「電源コードをいたんだまま使うと、火災などの原因となる。コードを折り曲げたりするような使い方はしない。」旨、記載されている。

■電気ファンヒーター

事故発生年月 2021 年 11 月（北海道、30 歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

電気ファンヒーターを使用中、電源プラグと延長コードが焦げた。

【事故の原因】

電源プラグ刃の芯線接続部でカシメ不良があったため、接触不良が生じて異常発熱し、発熱・焼損したものと推定される。

なお、輸入事業者は、2022 年 1 月 28 日付けホームページに社告を掲載し、対象商品の回収を実施している。

3. 暖房器具の注意ポイント（北海道版）

■「可燃物の接触」に要注意！

- ☑ 洗濯物や布団、衣類、クッションなどの可燃物を暖房器具の近くに置かない。
取扱説明書等に記載されている壁や可燃物との距離が十分に確保されているか確認する。
- ☑ 【※】シーズンオフなどで暖房器具にほこりよけのカバー等をかける場合は、電源プラグを抜き、誤って運転スイッチが入らないようにする。
- ☑ 【※】ほこりよけのカバーなどかけたまま使用しない。
- ☑ 就寝時や外出時は、必ず電源を切る（火を消す）。

※北海道などの寒冷地では、設置形の密閉式や半密閉式の石油ストーブの普及率が高く、オフシーズンにほこりよけのカバー等を掛けて保管することが多く、「2. 暖房器具の事故事例」の1つ目の事故事例のような、カバーを掛けたまま誤って運転スイッチを入れてしまった事故が発生しています。

■“石油”暖房器具の点検ポイント

- ☑ 置き台にほこり等があれば取り除く。
- ☑ 燃料は新しい灯油を使い、昨シーズンの灯油を使用しない。
灯油とガソリンは別の場所で保管するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底する。
- ☑ 給油時はカートリッジタンクのふたが確実に閉まっていること、漏れがないかを確認する。

■“電気”暖房器具の点検ポイント

- ☑ 製品がリコール対象製品ではないかを確認する。
- ☑ 電源コードや電源プラグが破損・変形していないか、たこ足配線になっていないかを確認する。

4. 製品事故の実験映像について

製品事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてください。

（本件に関する問い合わせ先）

〒060-0808 北海道札幌市北区北八条西2丁目

札幌第1合同庁舎 4階

独立行政法人製品評価技術基盤機構 北海道支所

担当者：神山、佐藤

電 話：011-709-2324